

編み直される暮らし

東京都台東区花川戸

敷地は、花川戸の一区画。花川戸は浅草の街の一角を担っていて、靴の間屋街となっている。計画敷地もその間屋街の流れをくんでおり、建物の一階に問屋が入っているものもある。

また、計画敷地の通りは、助六夢通りと江戸通りという道路に挟まれた状態で、前者計画敷地は、車通りがほぼ無く、後者は、中心部へと移動できる車通りが多い道路である。また、助六夢通りは隅田川公園を介し、隅田川に面している。

ここで問題点が二つ

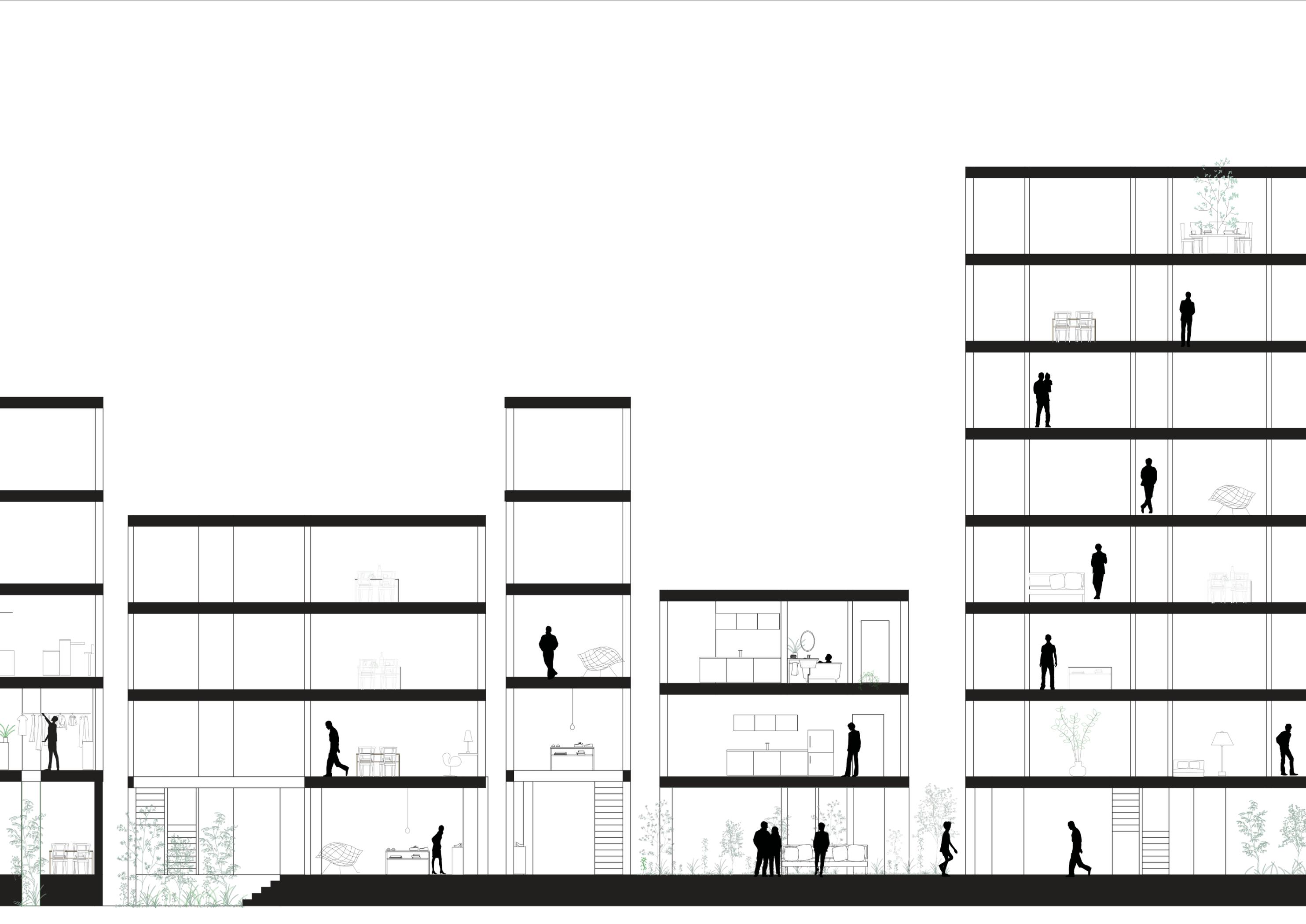
1. 密集された建築並びによる連続崩壊の危険性
2. 墨田公園、隅田川への動線の悪さ

新規案

計画敷地案の建物は、高層化、そしてプライベートの厳密化により、川沿いの大きな障壁のような存在になってしまっている。そこで計画敷地内の建物をリノベーションまたは、新築化する。

そこで2つの方法をとる。

- 1) 構造躯体のみを残し、リノベーションする。
- 2) 建築物を破壊し、新たな法規制で建物を考える。



01

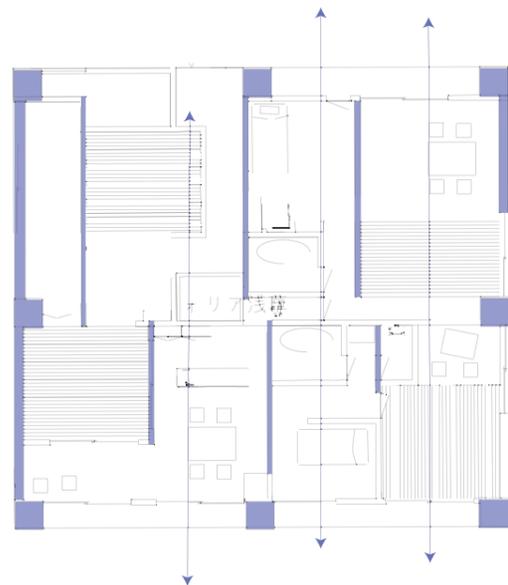
壁を抜いて回遊性を高める



■ : 既存躯体
■ : リノベーション

02

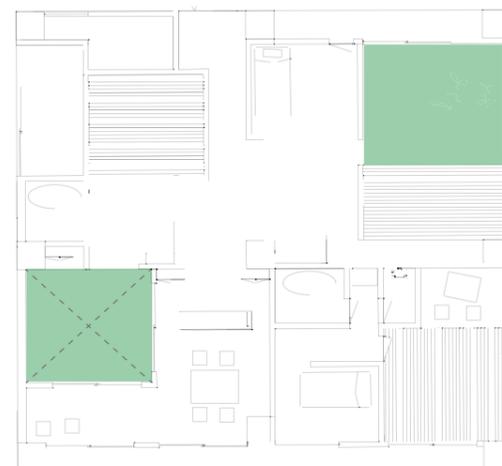
壁を抜いて住居内に抜けを作る



■ : 既存躯体
■ : リノベーション

03

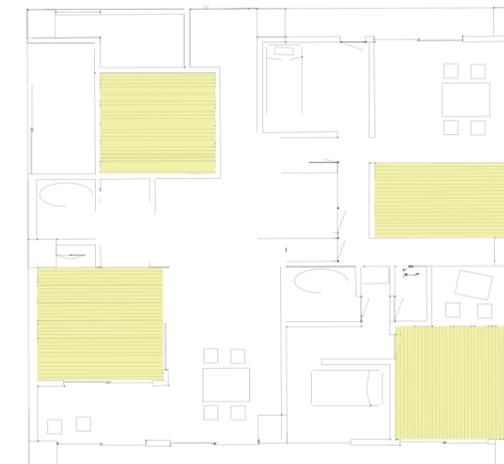
住居内に吹き抜け、中庭を作り開放感を高める



■ : 既存躯体
■ : リノベーション

04

部屋内の床を張替え、屋内テラスを作り出す



■ : 既存躯体
■ : リノベーション

従来の集合住宅になかった
移動性が生まれる



住人同士の新たな境界



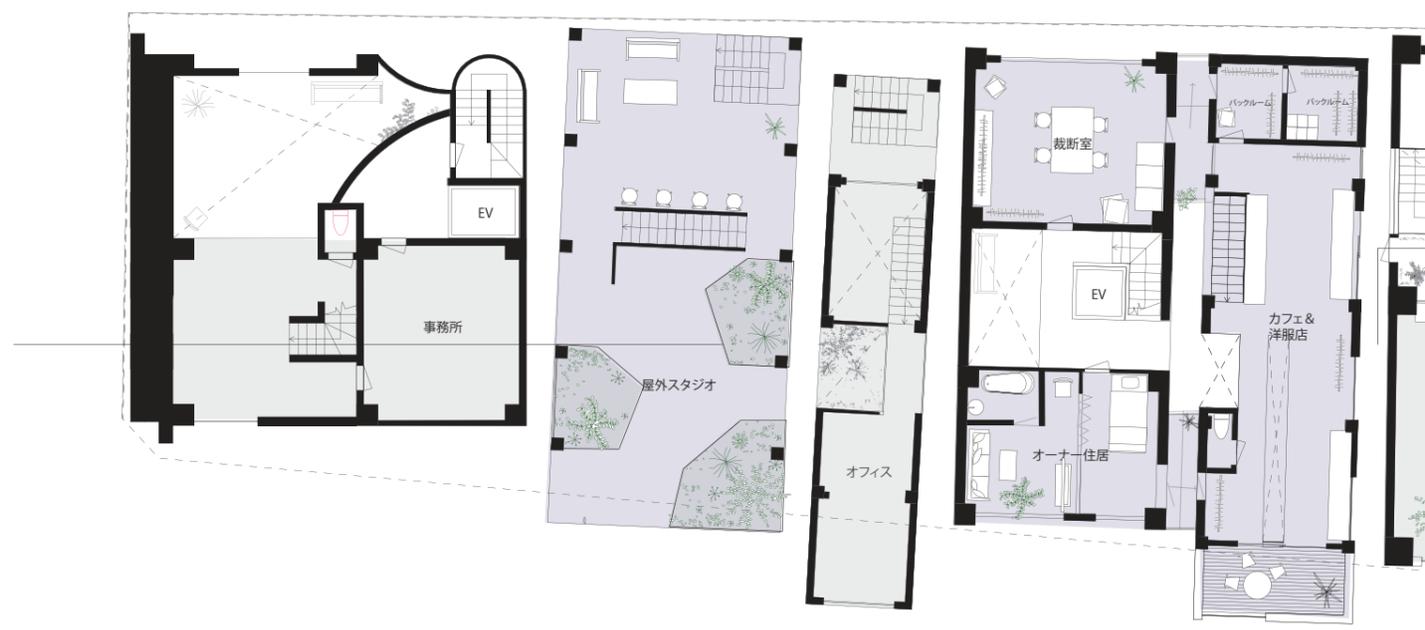
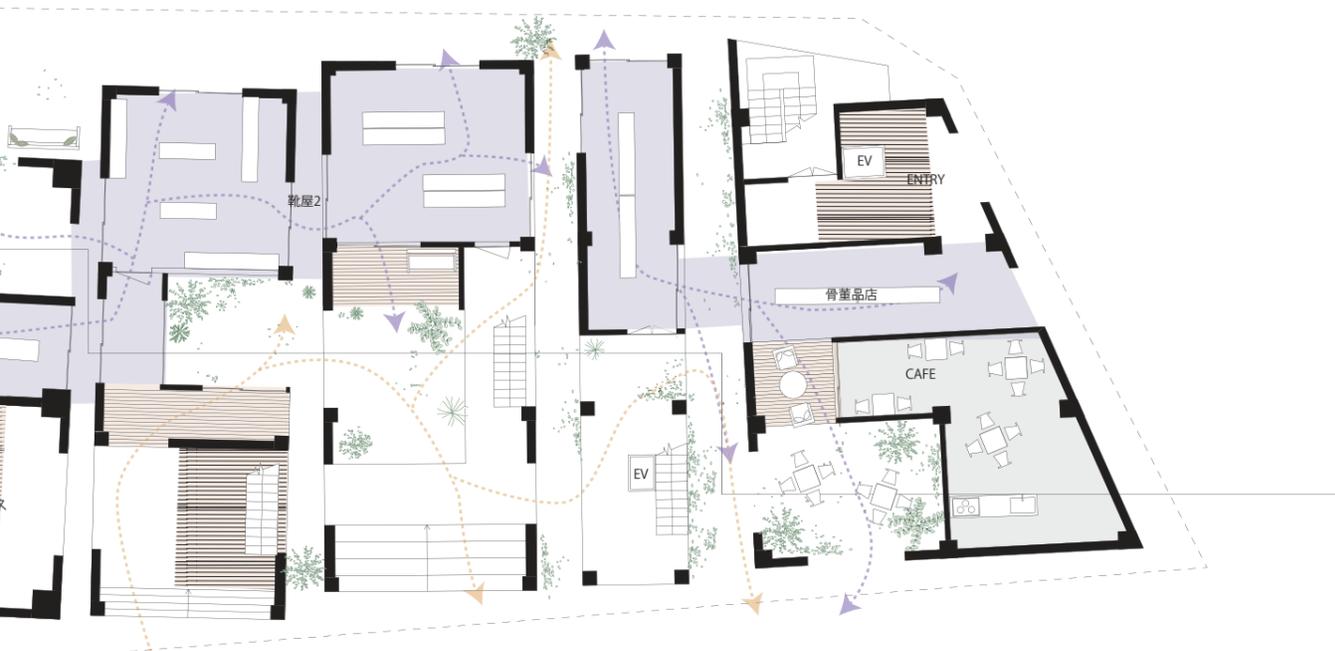
新しい開放感を生む



大きい緩衝空間を用意する
事により様々な部屋の使い方







S=1/100 1F PLAN 



S=1/100 住居階 PLAN 